

目 次

まえがき

第 I 部 日英語の比較—「内的独白」と「話法」—

第 1 章 英語の「内的独白」と日本語の「心内独白」	
— 〈意識の直接的表現性〉をめぐる—	3
1 英語の物語における「内的独白」	4
1.1 「内的独白」とその言語的、書記的特徴	4
1.2 「内的独白」の具体例	6
1.3 まとめ	10
2 日本語の物語における「語り」の様式と「心内独白」	11
2.1 日本語の物語における「語り」の様式	11
2.2 日本語の物語における「心内独白」	13
2.2.1 「心内独白」の変異形	13
2.2.2 「心内独白」の具体例	15
2.2.2.1 (I) 心の中に聞き手を想定している場合	15
2.2.2.2 (II) 心の中に聞き手を想定していない場合	17
2.2.3 まとめ	22
2.3 「心内独白」と「語り」の様式 (IV) との関係	23
2.3.1 「語り」の様式 (IV) とは	23
2.3.2 「語り」の様式 (IV) の文は「自由間接話法」か	26
2.3.2.1 西欧流の「自由間接話法」とは	27
2.3.2.2 日本語の「自由間接話法」に関する論考の是非	28
2.3.2.2.1 Suzuki (2002) の場合	29
2.3.2.2.2 工藤 (1995) の場合	31
2.3.2.2.3 まとめ	34
2.3.3 まとめ	34
2.4 一人称物語の「心内独白」	35
2.5 まとめ	39
3 英語の「内的独白」と日本語の「心内独白」の比較	40
3.1 「内的独白」と「心内独白」の差異と語り手の状況把握の傾向性	40

3.2 英語の三人称物語における「心内独白」	44
3.2.1 「NP + V-ing」句の場合	44
3.2.2 懸垂分詞構文の場合	46
3.2.3 まとめ	47
4 “生”の意識表現, 「心内独白」	50

第2章 日英語「話法」の比較

—日本語における「話法」とは—	53
1 英語の「話法」について	54
1.1 Leech and Short (1981) の場合	54
1.1.1 発話の表出	54
1.1.2 思考の表出	56
1.2 Leech and Short (1981) の修正点	58
1.3 まとめ	60
2 日本語の引用符の働き	61
2.1 近現代小説における思考の表出方法	61
2.2 近現代小説における発話の表出方法	64
2.2.1 引用符のある場合	64
2.2.2 引用符のない場合	65
2.2.3 引用符のある場合とない場合が共存する場合	69
2.2.4 古典文学における発話と思考の表出方法	71
2.2.5 まとめ	73
2.3 まとめ	74
3 日本語の「話法」とは	76
3.1 英語の「話法」と日本語の発話・思考の表出方法の比較	77
3.2 まとめ	79
4 おわりに	80
[付記: 「話法」と翻訳の問題]	81

第II部 談話における言語表現

第3章 談話における状態動詞の進行形

—時指向のアプローチから認識論的アプローチへ—	95
1 「時指向のアプローチ」と状態動詞の進行形	96

1.1	live の場合	97
1.2	sit, stand, lie クラスの動詞の場合	98
1.3	look の場合	101
1.4	feel の場合	102
1.5	まとめ	102
2	新しいアプローチと分析対象	103
3	状態動詞の進行形の談話分析	105
3.1	物語テキストの地の文に生起する場合	105
3.1.1	sit, stand, lie クラスの動詞の場合	105
3.1.1.1	登場人物の視点が支配する場面に生起する場合	105
3.1.1.1.1	先行部分に squint, look at, see, look などの動詞(句)がくる場合	106
3.1.1.1.2	先行部分に turn, whip round などの動詞(句)がくる場合	114
3.1.1.1.3	まとめ	117
3.1.1.2	登場人物の視点が支配しない場面に生起する場合	123
3.1.1.2.1	対人的機能としての拡大機能	124
3.1.1.2.2	拡大機能による局面転換	126
3.1.1.2.3	拡大機能による始動性	128
3.1.1.2.4	一人称物語の場合	129
3.1.1.2.5	まとめ	131
3.1.2	look と wear の場合	131
3.1.2.1	look の場合	131
3.1.2.2	wear の場合	133
3.1.2.3	まとめ	134
3.1.3	まとめ	135
3.2	物語テキストの会話部に生起する場合	136
3.2.1	sit, stand, lie クラスの動詞の場合	138
3.2.1.1	現在時制の場合	138
3.2.1.2	過去時制の場合	142
3.2.2	live の場合	145
3.2.3	look の場合	147
3.2.4	feel の場合	151
3.2.5	まとめ	153
4	おわりに	154
	[付記：非状態動詞の場合]	157

第4章 談話における S_1 when S_2 構文

—線条的解釈と「体験の意味類型」について— …… 165

- 1 S_1 when S_2 構文の線条的解釈が可能な場合の典型的な生起パターン 166
 - 1.1 同一文内で連続する節の一部として生起する場合 …… 167
 - 1.1.1 [X and S_1 when S_2 and Y.] パタン …… 167
 - 1.1.2 [X and S_1 when S_2 . Y.] パタン …… 168
 - 1.1.3 [X. S_1 when S_2 and Y.] パタン …… 168
 - 1.2 同一段落の連続する文の一部として生起する場合 …… 168
 - 1.2.1 [X. S_1 when S_2 . Y.] パタン …… 168
 - 1.3 新しい段落の開始部分に生起する場合 …… 168
 - 1.3.1 [X ∨ S_1 when S_2 and Y.] パタン (∨は書記上, 改行されて
いることを示す) …… 168
 - 1.3.2 [X ∨ S_1 when S_2 . Y.] パタン …… 169
 - 1.4 新しい章の開始部分に生起する場合 …… 169
 - 1.4.1 [(X) ∇ S_1 when S_2 . Y.] パタン (∇は章の始まりを示す) …… 169
- 2 S_1 when S_2 構文の「語り」の様式と線条的解釈 …… 170
 - 2.1 同一文内で連続する節の一部として生起する場合 …… 171
 - 2.2 同一段落の連続する文の一部として生起する場合 …… 173
 - 2.3 新しい段落の開始部分に生起する場合 …… 175
 - 2.4 新しい章の開始部分に生起する場合 …… 177
 - 2.5 まとめ …… 178
- 3 S_1 when S_2 構文と後続節・文の示す「体験の意味類型」 …… 181
 - 3.1 S_1 の主語 (登場人物 A) の視点の支配が感知できる場合 …… 182
 - 3.1.1 S_1 と S_2 と Y の主語がすべて同じ登場人物 A の場合
[S_1 (A) when S_2 (A). Y (A).] …… 182
 - 3.1.2 S_1 と S_2 の主語が同じ登場人物 A で, Y の主語が登場人物
B の場合 [S_1 (A) when S_2 (A). Y (B).] …… 183
 - 3.1.3 S_1 と Y の主語が同じ登場人物 A で, S_2 の主語が登場人物
B の場合 [S_1 (A) when S_2 (B). Y (A).] …… 185
 - 3.1.4 S_1 の主語が登場人物 A で, S_2 と Y の主語が同じ登場人物
B の場合 [S_1 (A) when S_2 (B). Y (B).] …… 188
 - 3.1.5 S_1 の主語が登場人物 A で, S_2 の主語が登場人物 B で, Y の
主語が登場人物 C の場合 [S_1 (A) when S_2 (B). Y (C).] …… 190
 - 3.1.6 まとめ …… 191
 - 3.2 S_1 の主語以外の登場人物の視点の支配が感知できる場合 …… 192
 - 3.2.1 具体例 …… 192
 - 3.2.2 まとめ …… 195

4 おわりに	196
4.1 S ₁ when S ₂ 構文と日本語の「心内独白」を反映する物語文との 対応関係	196
4.2 S ₁ when S ₂ 構文と〈懸垂分詞＋主節〉構文との連続性について 〔付記：when 節以外に線条的解釈が可能になる wh-節（関係詞節）〕	201
第5章 談話における指示表現	
—物語における名指しの戦略—	205
1 Givón (1983) における「トピック連続性の仮説」について	207
2 Fox (1987) における「テキストの展開構造」について	209
3 指示表現と登場人物の視点	214
4 指示表現と語りのスタンス	219
5 おわりに	222
第6章 談話における直接話法の報告節	
—Hemingway の“The Killers”の場合—	223
1 従来の分析	225
2 報告節 (P said と said P) の意味機能について	226
2.1 具体例の分析 (I)	226
2.2 具体例の分析 (II)	229
2.3 登場人物と取り巻く独特の世界について	231
2.4 まとめ	234
3 報告節 (P said と said P) の表現効果について	234
4 おわりに	237
あとがき	239
参考文献	241
索引	251